

2022年5月10日

「GWのため2週間ぶりの授業なので、前回の復習から始めます」ということで、実質的な日本開国となった、「日米修好通商条約」から振返っていただき、第3回の積み残しを講義いただいた。

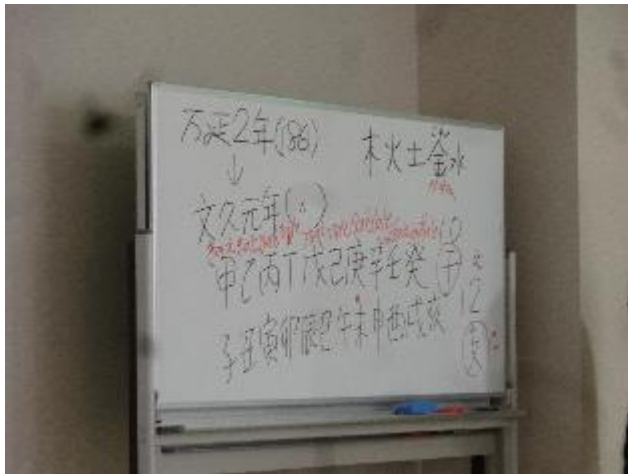
### <振り返りと積み残しの内容>

- ・ペリー黒船の圧力に圧倒されて、朝廷の意向に反して、幕府が「日米修好通商条約」を結ぶ
- ・この幕府の横暴に苦情を言った人々に、井伊直弼が「安政の大獄」で処罰を加える(1858)
- ・井伊直弼は、「桜田門外の変」で暗殺される(1860)
- ・久世広周、安藤信正が老中となり(1860)、幕府と朝廷の仲直り「公武一和」を画策。  
岩倉具視の後押しで、孝明天皇の妹の和宮を14代将軍家茂に嫁がせる(1862)。
- ・老中安藤信正が、江戸城坂下門外で襲撃される(坂下門外の変)(1862)。  
江戸城で大老、老中が襲われることで、幕府の権威が失墜する中で、外様大名である薩摩、長州が政治に関与し始める。

第4回講義は、第3回の積み残しの講義で時間いっぱいとなった。  
次回は、薩摩の動向に注目した講義になる予定で、楽しみである。

### <中村先生からの情報、アドバイス>

- ・歴史について考える時は、「時間軸」を意識して欲しい。  
教科書や歴史ドラマの中には、「結果がわかっている現代」の視点から、過去を振り返って、記述されているものが多い。それを鵜呑みにすると誤解してしまう可能性がある。その時々時代の背景を理解しながら、それぞれの行動を評価する必要がある。
- ・「大政奉還(1867)」という言葉があるが、この言葉を理解するためには、「大政委任」という考えを理解する必要がある。「大政委任」は、徳川幕府が天皇から委任されて政治を行うという考え。この考えを使って、幼少の将軍でも問題無として、徳川幕府が継続することができた。
- ・干支(えと)は、  
十干(じっかん) 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸  
十二支(じゅうにし) 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥 の組み合わせである。  
この組み合わせが60年で一周するので、「還暦」という。



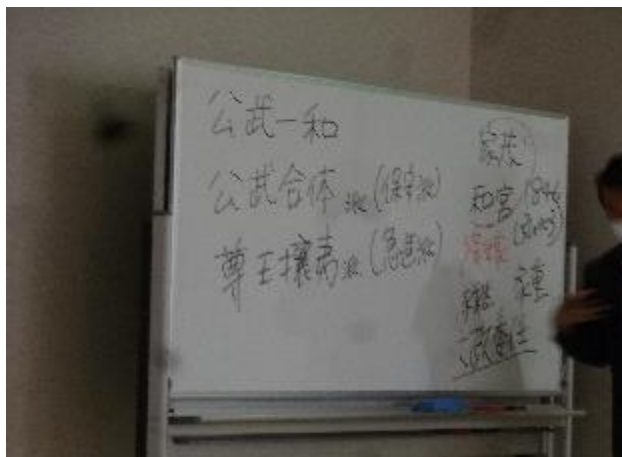
### 干支(えと)の解説

十干と十二支の組み合わせで表現する。  
ちなみに、令和4年(2022年)の干支は「壬寅(みずのえとら)」です。



### 江戸時代後期の御所近辺の地図

和宮が住んでいた場所を指し示す中村先生。  
御所の東隣に住まわれていた。  
婚約者であった、有栖川宮熾仁親王も  
近所に住まれていたそうです。



幕末を公武合体派と尊王攘夷派の対立と  
見なすのは間違い。

公武合体とは、朝廷と幕府が仲良くすることで  
尊王攘夷とは、天皇を中心として、外国が侵略  
して来たときは戦うということ。

これらは、対立する概念では無い。



島津斉彬の弟の島津久光。

人気のある西郷隆盛を嫌っていたため、  
低く評価されている一面もあり。

次回講義の主役である。